

5 多様な指導過程

教育活動全体を通して行う道徳教育は、計画的発展的に行う必要があります。さらに、以下のような指導を効果的に取り入れていくことによって、道徳教育の目標を達成していくことがのぞましいと考えられます。

(1) 質の高い多様な指導方法

① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

「特別の教科 道徳」の指導法・評価等について（報告）平成 28 年 7 月 22 日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

指導過程の例

ねらい	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	
導入	○道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	【発問】 ・これまでに○○な体験をしたことありますか。
展開	○登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。	【発問】 ・どうして主人公は、○○という行動をとることができたのだろう。
	○振り返り 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。	【発問】 ・自分だったら、主人公のように考え、行動することができるだろうか。
終末	○まとめ ・教師による説話。 ・今後どのように生かすことができるかを考える。 ・学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。	【活動】 ・これからの生活をどのようにしていきたいか考えをまとめる。 ・本時の学習の感想を聞き合う。

実践例 問題解決的な場面を取り入れた学習過程

小学校 第3学年 内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任

教材名 「思い切っていたらどうなるの？」（出典：光文書院「ゆたかな心 新しい道徳3」）

○ねらい 正しいと知りながらも、様々な葛藤の中で悩む主人公の心情について人間理解を図りながら、正しいと判断したことは、進んで行おうとする態度を育てる。

○教材について

本教材は、主人公のともこが仲の良い友達のあやちゃんに、さとみを仲間外れにするように誘われ、仲間外れはだめなことだと分かっているが、なかなか言い出すことができないともこの心の葛藤が描かれた話である。正しいと思ったことを実行するのが容易ではない場面だが、正しい行動がとれた時の明るい気持ちについて考え、価値理解を深めていく展開となっている。

○指導計画

○学習活動 ・児童の思考		指導のポイント
導入	<p>○「私たちの道徳（P32）」の3枚の絵を見て、自分ならどうするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいと思うことをやるができると思う。 ・分かってはいるけど、実際にやるのは難しそうだ。 	<p><導入の工夫> 「私たちの道徳」を本時の内容項目の把握のために、導入段階で活用している。</p>
展開	<p>○教材を読み、価値について考える。</p> <p><発問> 自分がともこだったら、あやちゃんに言うことができますか。</p> <p>※共感できるかどうか自分の考えを明らかにして、思いや考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒られそうだから、あやちゃんには言えない。 ・誘ってもらえなくなるかもしれない。 ・仲間外れにされるかもしれない。 ・さとみさんがかわいそうだから、勇気を出して言える。 ・友達だから注意しないと。 ・みんなで行ったほうが楽しい。 <p><発問> 思い切ってさとみさんを誘えたら、ともこはどんな気持ちになれるでしょうか。誘えなかったらどんな気持ちになるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【誘ったら】いいきもち すっきりする ・【誘わなかったら】後悔 暗い気持ち 	<p><発問の工夫> 教材の登場人物に対して、自分ならどうするか考えさせることで、人間理解を深めている。</p>
	<p><発問> 迷っているともこに何と言ってあげたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとみさんがかわいそうだよ。 ・言わなかったら後悔するよ。 	<p><児童の心情を表現する工夫> 「言える」、「言えない」という立場の違いをはっきりさせ、その思いの強さを表せるようにして、児童の考えを深めさせようとしている。</p>
	<p>○正しいと判断したことを実行できた経験とその時の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪口を言っている友達に、ダメだよとすることができた。 ・仲間外れにしようと言われたけど、注意できた。 ・周りがよくないことをしていたけれど、自分はしなかった。 	<p><発問の工夫> 登場人物の行動を想起して、それぞれの行動をした結果の気持ちを考えさせることで、判断の材料としている。</p>
	<p>○教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余韻を残して終わる。 	<p><振り返り> 教材で考えたことを踏まえて、これまでの経験を思い出して、自分の判断を振り返るようにしている。</p>
終末		

③道徳的行為に関する体験的な学習

「特別の教科 道徳」の指導法・評価等について（報告）平成28年7月22日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどのような行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

指導過程の例

ねらい	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など <ul style="list-style-type: none"> ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、問題意識をもつ。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳的な問題場面の把握や考察など <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的行為を実践するには勇気があることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 ○問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 ○道徳的価値の意味の考察など <ul style="list-style-type: none"> ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもつ。 	
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・教師による説話。 ・今後どのように生かすことができるかを考える。 ・学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。 	【活動】 <ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活をどのようにしていきたいか考えをまとめる。 ・本時の学習の感想を聞き合う。

実践例 道徳的行為の体験を取り入れた学習過程

中学校 第1学年 内容項目 B 思いやり、感謝

教材名 「人のフリみて」 (出典：中学生の道徳「廣濟堂あかつき」)

○ねらい 人々の善意や自分を支えてくれるものの存在に気づき、感謝の気持ちを伝えようとする態度を育てる。

○指導計画

○学習活動 ・生徒の思考		指導のポイント
導入	<p>○「ありがとう」のよさを考える。</p> <p><発問></p> <p>言われて嬉しい言葉はなんですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう <p><発問></p> <p>どうして、「ありがとう」と言われたらうれしいのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちが伝わるから。 ・感謝されるのは気持ちがいいから。 	<p><導入の工夫></p> <p>普段の生活の中で使われる言葉について、道徳的な価値としてとらえることで、本時に考えることを想起させている。</p>
展開	<p>○教材「人のフリみて」を読んで考えを発表する。</p> <p><発問></p> <p>「ありがとう」の言葉を聞いたり、口に出したりすると、筆者はどんな気持ちになると言っていますか？</p> <p>○「ありがとう」について考える。</p> <p><発問></p> <p>「ありがとう」という言葉には、どんな力があるだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心をあたたくする力 ・人との関わりを深めてくれる言葉 <p>○「ありがとうリレー」を行う。</p> <p>①「ありがとう」をいう相手と何に対してかをできるだけたくさん書く。</p> <p>②順番に声に出して書いた内容をグループで言っていく。</p>	<p><教材の読み取り></p> <p>普段の思っている言葉の意味と違った視点に気付くために、教材を活用している。</p>
終末	<p>○「ありがとうリレー」をやってどんな気持ちになったか交流する。</p> <p>○本時の感想を書く。</p>	<p><体験的な活動></p> <p>普段の生活や教材で気付いた「ありがとう」の力を踏まえ、実際に声に出してみる活動を取り入れている。感謝の気持ちに気付くことと、実際に声に出してみることで、体験的にそのよさを感じられるようにしている。言葉で表現することで道徳的価値への理解が深まるようにしている。</p>

小学校 第5学年 内容項目 D 生命の尊さ

教材名 「かけがえのない命」(私たちの道徳【小学校5・6年】P108)

○ねらい 命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する態度を育てる。

○指導計画

		指導のポイント
導入	<p>○学習活動 ・児童の思考</p> <p>○東日本大震災についての事実を震災後の写真を活用して確認する。</p> <p><発問></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みなさんは「東日本大震災」で知っていることはありますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・最大震度7はどんなゆれなのだろう。 ・波の高さ10m以上だとどうなるのだろう。 ・多くの人たちが災害にあった。 	<p><導入の工夫></p> <p>知っていることをあげたり、写真を活用したりして、ねらいとする価値に対する問題意識をもたせている。</p>
展開	<p>○「命てんでんこ」を読んで命の尊さについて話し合う。</p> <p><発問></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地震がくる前のぼくは、地震についてどう思っていたのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・他人事のような感じ。 ・命がなくなることはないだろう。 ・あまり、身近なことではない。 <p>○地震がくる前と実際に地震がきた時の気持ちを多様に話し合い、人間理解を深める。</p> <p><発問></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地震がきたとき、ぼくはどんな気持ちだったのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・怖い ・不安 ・死んでしまうのか <p><発問></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お父さんの仕事を手伝う「ぼく」は、どんなことを考えていただろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一人でも助けたい。 ・命てんでんこという言葉。 ・命より大切なものはない。 ・震災に負けたくない。 <p>○自分の考えを見つめる。</p> <p>○ワークシートに記入する。</p> <p><発問></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>これまでに生命のかけがえのなさを感じたことはありますか。</p> </div> <p>○グループで交流する。</p>	<p><教材の工夫></p> <p>「私たちの道徳」の読み物教材を中心的な教材として活用している。</p> <p><話し合い活動></p> <p>教材の中での登場人物の場面ごとの心情の変化をとらえながら、話し合いをすることで自分と違う考えがあることを知り、人間理解を深めている。</p> <p><書く活動></p> <p>ワークシートを活用して、自分の考えを見つめ、道徳的価値の理解が深まるようにしている。</p>
終末	<p>○教師から、本の紹介を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100万回生きたねこ <p>○本時の自分を振り返る。</p>	<p><終末の工夫></p> <p>本の紹介をして、価値についての視点を広げて余韻をもたせている。また、本時での自分を振り返り、考え方の違いに気付くようにしている。</p>

(4) 情報モラル・現代的な課題に関する指導

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2) (6)
児童の発達段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること。また、児童の発達段階や特性等を考慮し、例えば、社会の持続可能な発展などの現代的な課題の扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努めること。なお、多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのないようにすること。

授業づくりのポイント

○情報社会の倫理、法の理解と遵守といった内容を中心に扱うことが考えられる。

○情報に関する教材を生かして話し合いを深めたり、疑似体験を取り入れたりすることで、情報モラルについて指導する。

・インターネットでの書き込みによるすれ違いの場面を想定して、礼儀について考える展開を取り入れる。
・インターネット上のルールや著作権などの法のきまりについて考えさせる。

・相手の顔が見えないメールと顔を合わせた会話との違いを理解し、相手に与える影響を考える。
・インターネット上の法やきまりを守れずに引き起こされた出来事を題材として扱う。

機器の使い方、インターネットの操作など練習に主眼をおかない



使い方によっては、相手を傷つけることもあることを理解する。

授業づくりのポイント

○現代的な課題を身近な問題と結び付けて、自分との関わりで考えられるようにする。

・食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育など。
・他の教育活動と関連付けて人としてよりよく生きる上で大切なものはなにか、自分はどうやって生きていくべきか考えることができるような展開が考えられる。

実践例 情報モラルに関する学習過程

小学校 第5学年 内容項目 B 親切、思いやり

教材名 「情報社会に生きる私たち」(私たちの道徳【5・6年】P184)

○ねらい 情報社会での問題点に気づき、情報社会と上手に付き合う方法について考える。

○指導計画

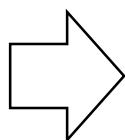
○学習活動 ・児童の思考		指導のポイント
導入	<p>○本時で考えることを確認する。【私たちの道徳 P184】</p> <p><発問></p> <p>情報機器にはどんなものがあり、どのような働きがあるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の活用が生活を豊かにしている。 <p>○情報社会という言葉を知る。</p> <p>【課題】</p> <p>情報社会と上手に関わる方法について話し合おう。</p>	<p><導入の工夫></p> <p>「私たちの道徳」の資料を活用して、本時で扱う内容を想起させている。</p>
展開	<p>○情報社会の実態をつかむ。【私たちの道徳 P185】話し合う。</p> <p><発問></p> <p>グラフを読み取って、気付いたことから情報社会の問題点と解決方法について意見交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器を使う時の問題が分かった。 <p>○メールでの言葉の使い方について考える。</p> <p><発問></p> <p>メールを使う時のきまりを3つまでグループで決めよう。</p> <p>※話し合いの時は、保護者も参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールを使う時に気を付けることが分かった。 	<p><課題設定></p> <p>導入を受けて、課題を設定することによって児童の思考の流れをつくり、何について考えていくのか明確にしている。</p> <p><課題解決></p> <p>課題意識をもち、自分たちで解決する方法を考えさせることにより、主体的な学びを目指している。</p>
終末	<p>○本時での学習の感想を交流する。</p> <p>○教師の説話を聞く。</p> <p>【まとめ】</p> <p>ルールやマナーを守り、相手を思いやり発信に責任をもって情報社会と上手に関わっていこう。</p>	<p><疑似体験></p> <p>実際メールを教材にすることで、受け取った側の心情を考えることができるようにしている。</p> <p><保護者の参加></p> <p>保護者も参観することで、同じ立場で考えたり、共通理解をはかったりすることができる。</p>

(5) 家庭や地域社会との連携による指導

〔「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2〕(7)
道徳科の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに家庭や地域の人々、各分野の専門家等の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

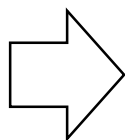
連携のポイント

○道徳の授業を公開する。



- ・道徳教育の要として、道徳科の授業を公開していく。
- ・授業参観で行う。
- ・保護者会等の機会に合わせて行う方法も考えられる。
- ・授業を参観した後、講演会や協議会を開催する方法も考えられる。
- ・保護者が児童生徒と同じように授業を受ける形で参加する。
- ・保護者が児童生徒と対話したり、グループの話合いに加わって意見交換したりする。
- ・保護者だけでなく、地域の人々にも呼びかけて、多くの参観を得られるような工夫をする。

○道徳科を家庭や地域社会との連携を進める重要な機会とする。



- ・授業前にアンケートや児童生徒への手紙等の協力を得たり、事後の指導に関して依頼したりすることが考えられる。
- ・地域の人々や団体などの外部人材の協力を得ることも考えられる。
- ・青少年団体の関係者、福祉関係者、自然活動関係者、スポーツ関係者、伝統文化の継承者、国際理解活動の関係者、企業関係者、NPO 法人の運営する人など。

6 道徳科の評価

(1) 道徳科の評価の考え方

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
「何を理解しているか、何ができるか」	「理解していること・できることをどう使うか」	「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

道徳科
では

道徳科
では

道徳科
では

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、 <u>道徳的諸価値についての理解</u> を基に、 <u>自己を見つめ</u> 、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める。	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、 <u>道徳的諸価値についての理解</u> を基に、 <u>自己を見つめ</u> 、 <u>物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え</u> 、 <u>自己（人間として）の生き方についての考えを深める。</u>	<u>よりよく生きるための基盤</u> となる道徳性を養うため、 <u>道徳的諸価値についての理解</u> を基に <u>自己を見つめ</u> 、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、 <u>自己（人間として）の生き方についての考えを深める。</u>
---	--	--

評価の在り方

道徳性の育成は3つの柱の土台となる

「将来いかに人間としてよりよく生きるか、いかに諸問題に適切に対応するか」
に深く関わってくる

したがって

資質・能力の三つの柱

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

道徳科の評価における
観点別評価は

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、妥当ではない

道徳科の
評価は

学習活動全体を見通して見取る

具体的には

観察や会話、作文やノートなどの記述
質問紙などを通して



他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から、
多面的・多角的な見方へと発展しているか

多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中
で深めているか

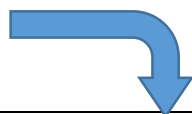
(2) 個人内評価の仕方

道徳科において、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、
記述するかということについては、学校の実態や児童生徒の実態に応じて、指導方法の工夫
と併せて適切に考える必要があると考えられます。

児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。		<ul style="list-style-type: none">・ 道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。・ 自分と違う意見や立場を理解しようとしているか。・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか。
道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。		<ul style="list-style-type: none">・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。・ 自らの生活や考えを見直していることがうかがえるか。・ 道徳的な問題に対して 自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているか。・ 道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え、考えようとしているか。
その他	...	教師の話や他の児童生徒の話に聞き入り考えを深めようとしている姿を見取ることも重要です。

さらに

1 単位時間の授業だけでなく、
学期や年間を通して見取る

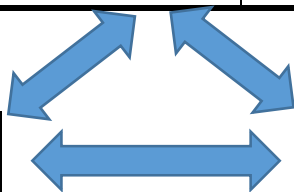


- ・ 感想をそのまま書いただけであった児童生徒が、回を追うごとに主人公に共感してきた。
- ・ 自分なりに考えを深めた内容を書くように変化が見られてきた。
- ・ 既習の内容と関連付けて考えていた。

(3) 評価のための具体的な工夫

道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するため、児童生徒が学習活動を通じて多面的・多角的な見方を発展させていることや、道徳的価値の理解を深めていることを見取るためには、以下のような様々な工夫が必要であると考えられます。

これまで	観察や会話による方法	作文やノートなどの記述による方法	質問紙などによる方法	面接による方法
さらに	学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの	道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの	作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションを行い、その過程を通じて児童生徒の学習状況や成長の様子を把握すること	



自己評価や相互評価	学級担任が自分のクラスの授業を参観する
児童生徒が自身のよい点や可能性について気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めることなど、学習の在り方を改善していくことに役立つ	普段の授業とは違う角度から子どもたちの新たな一面を発見することができる

評価が各個人の教師にのみ任せられ、個人として行われるのではなく、学校として組織的・計画的に行われることが重要

児童生徒の学習状況の評価

○数値による評価ではなく、記述式ですること。	⇒	・道徳性は人格の全体にかかわるものであり、数値などによって評価してはいけません。
○他の児童生徒との比較による相対評価ではなく、個人内評価とする。	⇒	・児童生徒がどのように成長していったかを見取り、はげますような評価にします。
○他の児童生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじみません。	⇒	・どの児童生徒が優れているという評価にはならないようにする必要があります。
○個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえて評価します。	⇒	・全体として、児童生徒の道徳的なよさを評価していく必要があります。
○発達障害等の児童生徒について配慮していく。	⇒	・配慮の仕方について、学校や教員間で共有しておく必要があります。
○指導要録の書式について総合的に見直す。	⇒	・道徳科の評価が入ることによる要録の形式を見直す必要があります。

道徳科は、人格そのものに働き掛けるものである。そこで…

評価は安易なものになってはいけない

児童生徒のよい点や成長の様子などを積極的に捉え、日常の指導や個別指導に生かしていく

学習指導過程の評価

学習指導過程の評価は、他教科と同様に、「指導と評価」が一体的に捉えられるようにすることが大切です。そのために、ねらいを明確にし、児童生徒がどのような姿を目指すのかを整理して評価していく必要があると考えられます。

○自己を見つめられるよう適切に構成されていたか。	⇒	・そのための手立ては適切だったか評価する。
○発問は、指導の意図に基づいて的確になされていたか。	⇒	・発問によって、意図した考えが出されたか評価する。
○児童生徒の発言を傾聴して受けとめるとともに、発言の背景を推察したり、学級全体に波及させたりしていたか。	⇒	・児童生徒の発言を受け入れることができたか、どうしてそのような発言にいたったか、とらえることができたか、発言のよさを全体のものとすることができたか評価する。

コラム 道徳科の誤解

道徳科の学習を行うに当たって、次のような誤解があるようです。代表的な例を掲載してみました。これをご覧いただき、道徳科の授業を実践していただきたいと思います。

道徳の時間と大きく変わった

- 基本的な指導過程に変更はありません。導入、展開、終末という展開を基本としながら、児童生徒の実態に応じた様々な展開が考えられます。

副読本は必要ない

- 検定教科書ができて、児童生徒の実態に応じて教材を広く求める姿勢が大切です。

1 内容項目を 1 単位時間で指導する

- 基本的には、1 単位時間で展開しますが、教材によっては、複数時間取り扱って指導することも考えられます。

教材は、担任が独断で変更してもよい

- 教材は、ねらいを達成するために中心的な役割を担うものであり、安易に変更することは避けなければいけません。

授業は、すべて学級担任が行う

- 校長や教頭などの参加、他の教師の協力的な指導の計画、保護者や地域の人々の参加や協力の計画することも考えられます。